

令和6年度 学校経営計画

1 学校教育目標

- ア 学力教養の充実
- イ 健全な心身の育成
- ウ 豊かな個性の確立

2 学校の特徴

令和5年度に創立110周年を迎えた。現在、普通科、薬業科、商業科、海洋科の4学科を有する総合制高校の特色を生かし、「高きを求める情熱」の生徒目標と「文武両道」の生活信条のもと、社会性や多様性を育む教育活動を推し進めることで、生徒は活気に満ちた学校生活を送っている。

中学校や進路先企業からは、明るい学校、部活動が活発な学校として評価され、厚い信頼を受けている。また、地域との連携として、地域行事への積極的参加・クリーンアップ活動・ボランティア活動等を推進し、同窓生、地域の人々からも温かい眼で見守られている。

3 学校の現状と課題

学校における様々な教育活動において、教員組織を挙げて、生徒一人一人の個性を大切にし、自主・自律の精神を身につけさせることを基本としている。また、特色ある4学科を有することが互いの刺激となり、「滑高ゼミ」や「専門学科総合選択」の授業を通して、他学科の専門的知識を学ぶことにより、さらに滑高生としての自覚を高め、生徒、教職員ともに地域に信頼される学校をつくろうという気概に充ちている。

県東部を代表する総合高校として、普通科の進路意識向上を目指した特色化と、薬業科・商業科・海洋科の専門性の伝統と進化を追求し、興味あふれる高校像を広く地域に発信し、いかに中学生を魅了できるかを模索していきたい。そのための特色化の具体策、伝統継承の分析と新たな視点の検討等、本年度の教育活動に加えていきたい。

上記目標達成のための課題として、①生徒の学習意欲を喚起し自学自習の学習習慣の定着を促す、②生徒の自主性・主体性を高める特別活動の充実に向けた取り組みを推進する、③専門学科に比べて、特色を出しづらい普通科の魅力向上に資する教育活動を展開する、等が挙げられる。

(様式2)

4 学校教育計画 ①学習活動 ②学校生活 ③進路支援 ④特別活動 ⑤その他

項 目		目 標 及 び 計 画	
(1)	① 学習活動 (指導)	目標	各教科・科目の目標を明確にし、生徒に応じた適切な指導を行い、基礎学力や学習習慣の定着を図る。また、生涯にわたって主体的に深く学ぶことができるよう興味・関心をもたせ、学ぶことの楽しさ・大切さを感じさせる。
	重点1①②	計画	① 授業内容の精選や系統化を図るとともに、多様な評価方法の検討を行い、授業の効率化と内容の充実を図る。 ② 年間指導計画ならびに観点別学習状況の評価法を検証し、工夫や改善を推進するとともに、定期考査や小テスト、校外模試や資格検定の結果などから学力の定着状況を把握するよう努める。 ③ 学年毎に面接指導や諸調査等を計画し、生徒の能力・適性の把握に努める。また、学習活動と部活動との両立を進める際の家庭学習(※)のあり方・必要性を伝え、習慣化を図る方法を探る。 ④ 基礎的事項の指導を徹底する。普通科では、より発展的な事項への学習意欲を高めるよう工夫する。一部の教科で実施している習熟度別授業や展開授業を活用し、生徒の自律心と探究心が生まれやすい指導法を探る。一方、専門学科では少人数制授業を実施するなどし、例えば目標とする資格取得につなげ自信をつけさせる指導を目指していく。さらに、長期の目標を見据えた辛抱強さを習慣に組み入れていくことも重要な要素である。 ⑤ 文字情報に触れる習慣を身につけ、社会問題への関心を喚起させる。表現力やコミュニケーション能力を高め、質の向上を図る。 (※)家庭学習は通塾、すき間時間活用、スマホを用いた学習など多様化している。
(2)	① その他 (デジタル対応と生徒データ集積)	目標	スクールポリシーの実現を目指す。生徒・保護者の進路要望への対応、教職員は日々の多様な評価要素から適正な学習評価につなげる。ICTを活用した取り組みを進め、長期的な視野で滑高生が身につける資質・能力(コンピテンシー)の向上を図る。 各学科が持つ多様な特性を最大限に生かし、連携・協力のもと学びを進める。生徒の状況を捉え蓄積していく。
	重点1③	計画	① 本校がルーブリックに掲げる学びに向かう力・人間性の諸要素「協働力、向上力、自律心、公德心」が育まれている教育活動を抽出していく。 ② (1) 校務支援システム、(2) 教員研修の申請システム、(3) オープンハイスクール(申請、生徒アンケート)、(4) 互見授業アンケート、(5) 前向きな学びに関する調査について GoogleForms を利用し引き続き集積データから考察を進める。 ③ 生徒の状況は、部活動の大会や考査・模試、資格のための補習など1年間(あるいは3年間)に強度の対象が多様に変化する。本校の特色「文武両道」を目指すには、心身の健康に加え相応の頑張りや我慢を要するはずである。学年団や学科より、長期の視点に立った早めの声かけや相談に応じ、行動変容につながる事例を集めたい。
(3)	① 図書指導	目標	高い教養と豊かな情操を養い、創造的な人間形成に寄与する活動を進める。
	重点1①②	計画	① 授業・「総合的な探究の時間」・「滑高ゼミ」などにおける読書・調査研究を支援するため、各教科等との連携を密にする。 ② 生徒図書委員会の活動を活発にし、生徒の求める図書・資料の充実に努め、効果的な要望の収集方法や提示方法を工夫する
(4)	③ 進路指導	目標	生徒一人ひとりが自己の能力、適性を見出し、それらに応じた進路選択ができるようサポートする。
	重点3 ①②③	計画	① 1学年では、入学時に家庭学習の習慣を確立させるとともに、高校3年間・卒業後の展望を持ち、主体的に進路選択できるよう支援を図る。2学年では、進路意識の向上を促し、学力の伸長を目指させる。3学年では、進路目標達成・実現のためのきめ細やかな指導・支援の充実を図る。 ② 学級担任等との面談や、外部講師による講演、ホームルーム等における進路研究、各種体験学習等を通して、進路意識の向上を図り、早期に目標を設定させる。 ③ 保護者会や保護者進路説明会で、情報・資料等を提供し、本校の進路指導及び生徒の進路選択・実現について理解・協力を得る。

項 目		目 標 及 び 計 画	
(5)	4 特別活動 重点 4①②	目標	学校行事、生徒会活動、ボランティア活動、部活動等を通して心身の健全な発育を促進し、自主性と規律ある習慣を身に付けさせるとともに、有為な社会人としての資質を育てる。
		計画	① 学校行事(春季スポーツ大会や体育大会、学園祭等)の運営方法や企画内容は、クラス・生徒会・委員会に工夫をさせて、教育効果を高める。 ② ホームルーム活動や生徒会活動、ボランティア活動、部活動においては、生徒が自主的・自発的に生き生きと活動するようにする。 ③ 「文武両道」である部活動と学習の両立を目指し、活動内容や活動時間を工夫し、生活を整えさせる指導を心がける。
(6)	2 生徒指導 重点 2①②	目標	生徒の自主性・自発性を尊重し、将来に渡って社会に対応できる誠実で健全な心身の育成や人づくりを目指す。
		計画	① 基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに規範意識の向上を図り、安全教育に努める。 ② 生徒の生活実態の把握や、様々な活動を通して生徒理解を深め、問題を持つ生徒への早期発見に心がけ、生徒の自己育成力の伸長を支援する。 ③ 生徒会・ホームルーム活動など生徒の意向を尊重し、良好な関係を保持しながら生活指導を推進する。 ④ 家庭や関係機関との連携を密にし、生徒の健全な育成に努める。
(7)	2 保健指導 重点 2①②	目標	環境整備・美化活動に努めることにより、快適な学習環境を自ら作る態度を養い、健康で安心・安全な生活が送れる生徒の育成を図る。また、学校生活の中で不適応感を持つ生徒の早期発見と適切な対応に努め、問題解決や自立に向けて、家庭や関係機関との連携を取りながら支援を進める。
		計画	① 日常使用する場所の清掃や整備に関心を持たせ、清潔で落ち着いた環境を整える態度や習慣を身につけさせるよう指導する。 ② 健康診断・各種検診の結果をもとに、健康についての理解が深まるよう適切に指導する。また保健に関する情報を随時発信し、規則正しい生活習慣を自覚させ、健康保持や疾病予防の自己管理の徹底に努めさせる。 ③ 学校保健委員会の開催及び自主的な生徒保健委員会・環境美化委員会活動の推進を図る。 ④ 施設、設備、用具の点検を定期的に行い、安全な環境づくりに努めるとともに、防災に対する意識を向上させる。 ⑤ 教育相談の企画運営を行うとともに、教育相談に対する教職員の意識向上に努める。 ⑥ 教育相談日より等の発行により、心の健康に関して生徒に啓蒙を図る。 ⑦ 教育相談連絡会やケース会議を随時開催し、支援を必要とする生徒の共通理解を深めるとともに、教職員・保護者・関係機関等との連携を図り、早期対応に努める。
(8)	1 3 薬業科 重点 1・3①	目標	・自己の可能性を高め、向上心・向学心を育てる。 ・富山の地域産業を支え、貢献する人材を育てる。
		計画	① 資格・検定の合格率を上げる。 ② プロジェクトなどの活動を通し、地域へ貢献する。 ③ 課題研究・実習を通して主体的態度と実践力・協働意識の育成を図る。
(9)	1 3 商業科 重点 1・3①②	目標	・時代の変化に対応した様々な資格取得や体験活動を通して社会人基礎力の向上を図る。 ・新学習指導要領に対応した指導方法や評価方法の改善を図る。 ・生徒の進路希望の実現を目指すため、上級の資格取得の充実を図る。
		計画	① 1年生ではインターンシップ、2年生は研修旅行での地域資源調査、3年生は販売実習など体験活動を実施する。 ② 財務会計Ⅰ、原価計算を重点科目とし、各検定の合格率、3年生は3種目以上1級取得者の増加を目指し、生徒の学習意欲の向上を図る。 ③ 総合的探究の時間の今年度からの活動として、地域活性化探究やプログラミングに関する探究、税理士・公認会計士に関する探究活動に取り組む。

(10)	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">1</div> <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px; margin-left: 10px;">3</div> 海洋科 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">重点 1・3①②</div>	目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な学習や課題探究型学習を基盤とした学習習慣の定着を図る。 ・基礎的・汎用的能力の育成を目指す。 ・水産・海洋分野の課題を見いだせる思考力と探究力を養う。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 体験活動の充実を図り、学習習慣の定着と学力向上を図る。 ② 水産市場や環境問題における革新的技術の進展を学び、進路選択に必要な素養と知識・技術力の必要性を認識させる。 ③ 各種検定・資格等の取得を奨め、学習意欲を高める。 ④ 課題研究の調査・研究では、共通テーマ (SDG's) の下で活動する。
項 目		目 標 及 び 計 画	
(11)	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">5</div> 地域との連携 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">重点 5①②</div>	目標	開かれた学校づくりに努め、地域との連携・交流を推進することにより生徒の健全な育成を目指す。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ① P T A活動をより活性化し、地域との連携を深める。 ② 学校 Web ページ、P T Aだより、教育安全情報提供システムなどをおして、本校の教育活動や地域との連携活動等を広く紹介することにより、地域との情報の交流を図る。 ③ 生徒の対外的な奉仕活動や、地域の人々との交流行事を推進する。

(様式3)

5 今年度の重点課題 (学校アクションプラン)

1学習活動 2学校生活 3進路支援 4特別活動 5その他

令和6年度 滑川高等学校アクションプラン - 1 -

重点項目	1学習活動 (1)学習指導、一部(2)その他を含む	
重点課題	スクールポリシーへの理解をより広くし、学習面でポリシー実現を目指す	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・教務規定に沿った校務支援システムの運用体制が整備されたが、引き続き入力や点検のための業務負担が大きい。 ・「新しい学び」が定着し始めている。学習の振り返りや面接時間の確保が課題である。 ・前向きな学び調査では、自律心を持っていないと感じる生徒が多いことが数値で示された。 	
達成目標	① スクールポリシーが「高さを求める情熱」の実現につながることへの理解を増やす。 ② 教職員が、スクールポリシーを目指した教育活動を計画する頻度が増えるように検討する。	③ 学びに向かう力が測れる「前向きな学びアンケート」を継続する。 ④ 調査期間が運動部の大会や教科・学科の資格検定、定期考査などの時期に重なる中で、どのように工夫して前向きに学習できているかの調査の方法を検討する。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールポリシーを提示し、実現のためのループリックの認知度を高める。 ・校務支援システムの教務部に該当する業務のうち、成績・出欠の確定までに要する教員の負担を精査する。情報部との連携を密にする。 ・互見授業を通じ、グループワークやタブレットを用いたICT教育などの授業展開を推奨・推進する。 ・生徒の評価方法や授業のあり方等について情報共有に努める。 ・年間指導計画の観点別評価に繋がる指導法を常に工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年及び情報部、進路指導部等と連携し学びに向かう力の向上のための対策を講じる。 ・学習課題を個々に指導し、精度をいかに高められるか、主体的に学ぶ意欲を高めさせる方法を研究する。 ・昨年度に引き続き、任意の2学級の学業成績で「主体的に学びに向かう態度」の評価がCであった科目数、人数を抽出する。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和6年度 滑川高等学校アクションプラン - 2 -

重点項目	2学校生活 (6)生徒指導 (7)保健指導	
重点課題	・スマホ依存の防止と自己管理能力の育成 ・環境美化	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等の長時間の利用による生活習慣や学習習慣が乱れている生徒が多くみられる。また安易に SNS で写真や動画を上げるなど個人情報の取り扱いや不適切な書き込みなど、利用マナーやモラルの欠如がみられる。 ・環境整備に取り組む姿勢は全体的には良くなっているが、清掃開始が遅れたり、清掃活動に積極的に参加できない生徒もみられる。 	
達成目標	① スマートフォン等の使用に関する自己管理能力の育成とネット上のルールやマナーの徹底を図る。また利用に潜む危険性についての認識を高めるとともに、危険回避能力の向上を図る。 ② スマートフォン等の利用の際に危険性を認識しながら利用している生徒の割合80%以上	① 環境美化委員会を中心とした環境整備、美化活動を習慣化するための自主的な活動を図る。 ・年間8回 (各学期の美化週間、6月の中庭花植え、7月、8月の除草や水遣り、8月、12月の長期休業中の部活動におけるトイレ・更衣室の掃除など)

方 策	<ul style="list-style-type: none"> 生徒への注意喚起を行うとともに、風紀委員や生徒会による使用のルール作りなど自発的な活動により意識づけを行う。 適切な利用について保護者と連携して、家庭でのルールづくりを徹底させる。 講習会や研修会等を開催し、ネットに関わるトラブルの発生を未然に防ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 美化週間を学期に1回設定し、環境美化委員を中心として、外清掃を含む清掃活動の強化を図る。 日常的に清掃を中心とした環境美化において全教職員でさらに粘り強く指導する。 花壇や中庭などの整備を行うことにより、情操教育の一助とする。
-----	---	---

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和6年度 滑川高等学校アクションプラン - 3 -					
重点項目	③進路支援 (4)進路指導				
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 進路目標の早期設定と進路実現に向けた支援 新課程入試に向けた情報収集と適切な指導 				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な進路目標を定める時期が遅いため、実現に向けて取り組む時間が十分確保できない生徒が多い。 進路目標達成のために、今何をすべきかを考え、見通しをもって実践できる生徒が少ない。 令和7年度入試より導入される「情報」に対して不安がある生徒が多い。 				
達成目標	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ① 2年3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望校への合格率(3年9月志望) ③ 新課程入試における生徒への情報提供と適切な指導 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ④ 希望する職種への内定率 ⑤ 多様な生徒の進路指導に対応できる体制づくり </td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px dashed black;"> ① 70%以上 ② 70%以上 ③ 100% </td> <td style="border-top: 1px dashed black;"> ④ 100% ⑤ 100% </td> </tr> </table>	① 2年3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望校への合格率(3年9月志望) ③ 新課程入試における生徒への情報提供と適切な指導	④ 希望する職種への内定率 ⑤ 多様な生徒の進路指導に対応できる体制づくり	① 70%以上 ② 70%以上 ③ 100%	④ 100% ⑤ 100%
① 2年3学期までに具体的な志望校、志望学部・学科を決める生徒の割合 ② 第1志望校への合格率(3年9月志望) ③ 新課程入試における生徒への情報提供と適切な指導	④ 希望する職種への内定率 ⑤ 多様な生徒の進路指導に対応できる体制づくり				
① 70%以上 ② 70%以上 ③ 100%	④ 100% ⑤ 100%				
方 策	<ul style="list-style-type: none"> 進路講話や出前授業、研修旅行、大学訪問などの行事を充実させ、進路意識を高める。 オープンキャンパスへの積極的参加を促す。 校内テストや外部模試の結果を基に自分の学力を把握させ、一層の努力を促す。 大手予備校からの情報や各種学校説明会で得た情報を教員間で共有し、生徒に適宜伝える。 教科補習、個別学習指導、面接指導等を全教員で行う。 <ul style="list-style-type: none"> 学校生活の様々な場面において礼儀やコミュニケーション能力など社会人として求められる力が身に付くよう指導を行う。 生徒が自己の能力や適性を知り、どのような職種・企業でそれらを発揮できるのか考える機会を与える。 教員が企業訪問を行い、求人情報や卒業生の情報の収集に努める。 就職試験に向けた指導を進路指導部、各科、学年で連携して行う。 就職支援アドバイザーとの連絡を密にし、就職内定のための支援を行う。 				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和6年度 滑川高等学校アクションプラン - 4 -	
重点項目	④特別活動 (5)特別活動
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会・ホームルーム・部活動において、自主的な活動を促し、リーダーシップを養成する。 ボランティア活動に積極的に参加する。 部活動と学業を両立し、困難に負けない人間性を育む。

現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・指示を聞いて正しく行動をとることのできる生徒は増えたが、自らがリーダーとなって責任を果たそうとする生徒が少ない。 ・学校行事に熱心に取り組む生徒は多い。しかし、与えられた活動に乗るだけで、自ら改善点を考えたり、アイデアを出したり、向上させようと関心を持つ生徒が少ない。 ・ボランティア活動への参加は、一部の科・部活動に限られている。 ・部活動は原則全員加入制を採用しており、高い目標を持って熱心に取り組んでいる部活が増えてきている。 ・学習と部活動の両立を図るための生活指導、面談が十分といえない。 	
達成目標	① 学校行事やホームルーム、生徒会活動、ボランティア活動において、役割や責任を持ち、積極的に参加することができたと感じる生徒割合	② 学習と部活動の両立を目指し、自身を向上させて、部活動の内容や時間、生活リズムを工夫し、充実感を持った生徒割合
	・ 80%以上	・ 80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事や各種取り組みにおいて、生徒が主体的に活動できるよう動機付けをする。 ・組織や役割分担を明確にすることで、リーダーを育てると共に、互いに連携し支援し合えるように指導する。 ・各クラスに学級長を配置し、生徒議会などを通してクラスの意見を吸い上げ、学校全体で行事や生徒会活動に関わりあえる組織作りを意識させる。 ・先を見通したHR計画、またテーマの設定や討議資料の作成、事前研究などの準備をすすめる、その反省をする。 ・市や県、児童館などからのボランティアの要請を積極的に明示する。 ・ホームルーム、部活動においても、ボランティア活動を行う。 ・生徒の主体性を尊重し、その中でルールを守り、生徒自らが学校行事・生徒会活動について、企画・アイデアを発案できるムードをつくるよにする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の競技力達成への目標を明確にし、計画的に取り組む。 ・積極的に休養日を設け、活動にメリハリを付け、健康面にも留意する。 ・部活の開始前、終了後の早い帰宅を促し、体力回復、家庭学習への取り組みについても指導する。 ・部活動指導員やスポーツエキスパートを活用し、教員の負担を軽減させながらも部活動の活性化を図る。 ・生徒会・学級長や部活動代表者を集め携帯電話のマナーや使用、校則遵守について、共通理解を深めるように指導する。 ・課題提出率の低い生徒、基本的な生活の乱れている生徒には、部活動顧問からも面談指導する。 ・担任以外の部活動顧問が協力し、高校生活の充実、進路実現、「滑川高校生らしい(進学・就職)究極の文武両道」を目指し、指導する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和6年度 滑川高等学校アクションプラン - 5 -			
重点項目	① 学習活動 ③進路支援 (8)(9)(10) 専門学科指導		
	< 薬 業 科 >	< 商 業 科 >	< 海 洋 科 >
重点課題	資格取得の充実	資格取得の充実	① 水産関連等の資格・検定取得の推進 ② 放課後アクティブラーニングの活性化
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得が生徒の学習意欲を引き出している一方で家庭学習が不足している生徒が増えてきている。 ・部活動と学業の両立を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容が新課程になって大幅に変更され、難易度も高くなっており、合格者数が心配される。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 各種検定・資格試験の合格者数が伸び悩んでいる。 →恒常的に家庭学習時間の不足が認められる。学力向上に費やす時間や意識が薄れている。 ② 環境活動発表や魚食振興のための外部との協働に海洋クラブが活躍する状況にある。

達成目標	①学年ごとの危険物乙種第4類取得者、危険物乙種全類取得者、危険物以外の各種資格検定に取り組む。	① 新課程の財務会計Ⅰ、原価計算を重点科目として、全商簿記実務検定1級の合格者数。 ② 3年生は3種目以上1級取得者の人数。	① 水産関連等の資格・検定取得数の向上をマリンマイスター申請者数で判断する。 ② 海洋クラブ活動をさらに活性化させ、 研究活動の外部発表 を行う。
	・危険物乙種第4類 1学年70% 2学年100% ・危険物乙種全類3学年85%を目指す ・品質管理検定4級合格50%	① 60%以上 ② 70%以上	① 1人年間3つ以上 ・申請率85%、プラチナ・ゴールドが申請者の35%以上 ② 昨年と比較し、質(進捗)で比較。
方 策	・危険物乙種全類取得を目指すし、学力補充を支援する。品質管理検定に取り組む。その他の資格(P検、英検、漢検など)で基礎学力を充実させるよう意識付けをする。	・観点別評価を効果的に活用し、生徒の主体的学習を促す。 ・ICTの効果的な活用。 ・習熟度別学習を効果的に活用。 ・放課後補習の実施。 ・生徒個々の学習状況を担当者で把握。	① 補習にて、資格取得のための学習を行い、意識の向上を促す。個別対応を充実させる。 ② 意欲的な生徒への参加を促し、社会貢献を兼ねた継続的な活動を行う。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)

令和6年度 滑川高等学校アクションプラン - 6 -	
重点項目	5 その他 (12)地域との連携・協力
重点課題	PTA活動の活性化
現 状	・役員会について、第1回74%、第2回68%、第3回57%、第4回32%の参加率であった。 ・PTA行事への参加者数は、PTA総会85名(参加率14.7%)、進路研修会16名、生徒と保護者の語る会4名、挨拶運動19名、祭礼巡視11名であった。 ・PTA役員会やPTA行事の様子をホームページで発信している。PTAだよりを年3回発行している。
達成目標	・PTA関連行事への参加率の向上
	① Webサイトの内容の充実 ② 情報安全メールの登録増
方 策	① 迅速な情報発信と内容の充実 ② 全学年保護者登録90%以上
	・案内を早めに配布し、ホームページにもあげる。 ・ホームページにPTA活動の様子をこまめにアップし、活動への理解・関心を高める。 ・PTAだよりなどを通して、PTA活動への関心を高め、参加を促す。
	① Webサイトのリニューアルを終えたので、地域及び受験を考える中学生に向けた迅速な情報発信に努める。また部活動の大会結果や日々の活動内容も掲載し、学校の魅力を発信する。 ② 発信の内容を見直し、発信回数を増やすとともに、保護者懇談会などで未登録者への呼びかけを随時行っていく。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状のまま D:現状より悪くなった)